

教育のページ

生涯学習係からの お知らせ



村教育課・生涯学習係では、各種講座やイベントを開催し、みなさんのご参加をお待ちしています。

「集中できたのが良かった
です。楽しかった」
石井せんさん（臼石）▶



7/8

7/8

いいたて
ふれあいウォーク

福島市のあづま総合運動公園
で「いいたてふれあいウォーク」
が開かれ、40人ほどの参加者が、
木漏れ日の美しい公園内の道、
約4・5kmを歩き交流しました。
参加者は会話を楽しみながら、
それぞれのペースでウォーキン
グ。球場で休憩したり、陸上競
技場で大会を覗いたり、公園の
施設にも親しみました。



「最高です。またあるといいですね」
夫婦で参加の中島一美さん
と友子さん（比曽）

▼みなさんの作品から



日本絵手紙協会公認講師の菅野
マズ子さんを迎えて3回連続の絵
手紙講座が開かれました。絵手紙
独特の筆使いや描き方を教わりな
がら、心静かに画仙紙のはがきに
向かうこと約1時間半。夏野菜を
題材にひとこ
と言葉を添え
て、素敵な作
品が仕上がリ
ました。作品
はこの秋、村
の文化祭に展
示される予定
です。



感謝の気持ちを伝えよう！
絵手紙講座（第2回23日・第3回30日）

こころの ぽけっと

「一人ひとりの復興を!!」

今朝、村の小学6年生が、沖縄の旅に出発
しました。明後日は中学生がイタリアに旅立
ちます。29日からは招待をいただいている長
野県の松本市や岐阜県の白川町などへ、そし
て来月はオーストラリアにも中学生が出発し
ます。

全村避難ということで、村を離れ仮校舎で
学ばなければならぬ児童や生徒へのせめて
もの村からの贈り物です。思い切り気分転換
し、世の中の広さや人の温かさを感じ取って
来てもらいたいものです。

村では、まだいな復興計画第1版、第2版と進めていま
すが、いずれも「戻りたい方」「戻りたくとも今は戻れな
い方」「戻らない方」それぞれにできる限り寄り添い、一人
ひとりの復興を目指すということを一貫して記載していま
す。

例えば、沖縄には45人中6人、イタリアには22人中8人、
オーストラリアには16人中2人、その他の夏休み中のほと
んどの行事にも、村外の学校へ転校した子どもたちに参加
してもらっています。

つまり、避難によって村の学校に通学できなくなっても
変わらず「村の子どもたち」との思いから声をかけさせ
ていただいています。

口で言ったり文字に書くほど生易しいことであるとは思
いませんが、村の復興の基本的精神をしっかりと計画に入れ、
個々の事業に取り組んでいこうと考えています。

戻る・戻らないに関わらず「一人ひとりに寄り添う」と
は他に何があるのか、何ができるのか、今真剣に復興計画
の具体化に向け協議をしていこうとしているところです。

平成24年7月22日 飯舘村長 菅野 典雄

いいたて 便り



ひと月のできごとを
振り返ってお知らせします



▲実際に楽器にも触れました



▲神職たちの雅楽の演奏

石川県から届いた 雅楽の調べと笹寿司

6/23



▲笹寿司。石川県では
祭りや行楽で食べられ
ているそうです

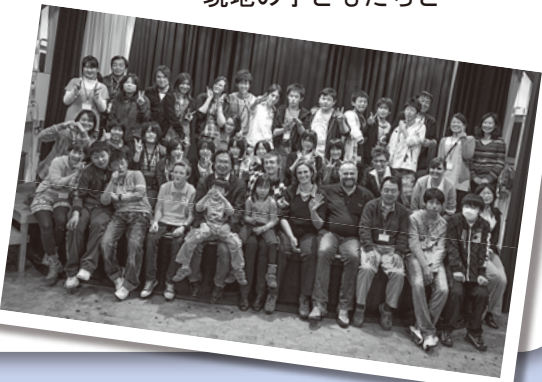
石川県内の青年神職で作る組織・石川県神道青年会
が、村社会福祉協議会を通じて松川第1・第2応急仮
設住宅を訪れ、雅楽の鑑賞会を開きました。会場は集
会所前の広場に設けられ、集まった住民は間近で演奏
される雅楽の音色に耳を傾けました。

また鑑賞会の後には、住民に石川県の郷土食「笹寿
し」が配られました。笹寿司は、寿司飯とネタをクマ
ザサでくるみ、箱に詰めて仕上げる押し寿司。金沢市
で笹寿司を作る企業から届けられました。

▶後半はパネルを前に来場者の
質問に答えました



▼ブライバツハ村での交流会。
現地子どもたちと



▼ビーダーバツハ村の馬牧場にて



研修のようすから

未来への翼

「いいたてっ子未
来基金」を活用し
村が中学生をヨー
ロッパ研修に派遣
する事業です